

AP 全体報告会:横浜国立大学 口頭発表

## YNU 学生ポートフォリオは学生の主体的な学びを促すか

市川結貴 (理工3年)・及川佳純 (経営2年)・里井あこ (教育2年)  
竹内達也 (経済2年)・中嶋晃 (経済2年)・中野基生 (経営2年)  
聞き手:大学院教育強化推進センター 市村光之

(このパネル・ディスカッションは、2020年3月5日のAP全体報告会にて、横浜国立大学の口頭発表として実施予定でした。新型コロナウイルス流行に伴い開催中止になったため、3月2日に学内において無聴衆で実施しました。)

### ■ YNU 学生ポートフォリオの特徴

**市村:** 毎学期の始めに学務情報システムから「履修登録」をクリックすると、アンケートのような画面が開きますね。これは「学生プロフィール」と呼ばれる「YNU 学生ポートフォリオ」(以降、ポートフォリオ)の入力画面です。早く履修登録したいのに何でこんなことさせるんだ! と思ったかもしれません。ごめんなさい。導入の首謀者は私です。ポートフォリオは、成績や学修成果(講義からの学び、日々の気づき)などを記録しておけるWEB上の自分専用ファイルです。学生に主体的な学びの姿勢を醸成するための内省、つまり振り返りのツールとして考案しました。主なコンテンツは以下の4つになります。

- ① **学修・生活行動自己チェックシート:** 日常の平均的な生活時間や学修・生活の意識や態度を入力します。生活パターンや学修姿勢を自己チェックすることで、学業や日常生活の課題について気づきを促すのが目的です。
- ② **学士力自己チェックシート:** 本学のディプロマ・ポリシーで掲げる学修成果の目標《4つの実践的「知」》の各項目について、伸長度合いを確認します。ここでは他者との比較ではなく絶対評価で入力し、学生の自己効力を醸成する意図もあります。
- ③ **就業力自己チェックシート:** 社会人基礎力のカテゴリで、就業力の現状を相対評価の要素を加味し、より客

観的に自己認識できるよう設計しています。学士力とは異なる切り口で、複眼で学修成果の可視化を図り、多角的に気づきを与える意図があります。

- ④ **振り返りシート:** 学業、学業以外の学生生活、自分自身、将来の4項目で、新学期を迎えるにあたって自分の考えを整理するための自由記述のシートです。①~③を踏まえて、自分の興味・関心の方向性や、足りないところや伸ばしたいところなどを言語化して確認し、新学期の履修計画に反映できます。ここで書く4項目は、就活でよく問われるテーマでもあり、ここをしっかりと言語化しておくことで就活の際に活用できます。

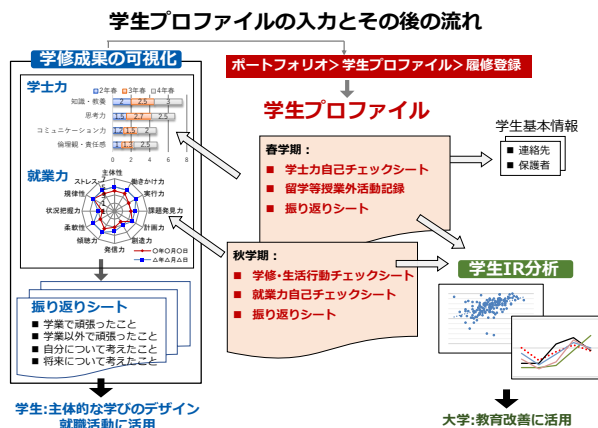
学生プロフィールを入力しないと履修登録画面に進めない手順にしましたので、導入担当者としては、このような形で学生に入力を強制することが、主体的な学びに結びつくのか、大学とは「自由に」学問に取り組む場ではないか、と迷いもありました。一方で、就活の時期になって、ポートフォリオに記録しておけばよかったと後悔する学生がいるのも事実で、定期的に振り返りを促すのも、学生が主体的な学びの姿勢を獲得する一助になると判断し、導入に踏み切った次第です。

学生プロフィールは、2018年春学期から本格導入しました。きょうお集まりの学生の皆さんでいうと、2年生は入学次から、3年生は2年次からになりますね。ディスカッションの手始めとして、パネラーの皆さんが、初めて学生プロフィールに入力したとき、どんなことを感じたのか。まずそこから話を聴かせてください。

### ポートフォリオを使ってどうだったか

**里井:** 入学時は大学がキラキラした場所に見えて、何事も丁寧に取り組みました。ポートフォリオの活用法が書かれている「アカデミック・リテラシー編」(本学の初年次教育用副読本)は全部読み、学生プロフィールも早めに詳しく入力しました。特に、「振り返りシート」は役に立って、なぜ自分は横浜国大の教育学部か、など明確に整理できました。教員になるべきか揺れている時期もあって、そんな時、振り返りシートで考えの変化とその要因を整理できました。

**中野:** 1年の始めの頃は時間にも余裕があり、すべての質問に真面目に回答しました。「アカデミック・リテラシー編」もざっと読んだと記憶しています。ただ、その後ポートフ



オリオを活用しているかという、そうでもないです。ポートフォリオはいつでも見返せますが、自主的に見返しはしておらず、自分の行動を改善するには至っていません。

**及川**：入学して最初にしなければならないことは履修登録でした。まずは履修登録を済ませたいという意識があり、学生プロフィールは適当に入力しました。その際は、自分にはあまり意味のないものと捉えていました。

**竹内**：僕も入力時は面倒くさいと思っていました。まず履修登録しなければいけない、というのがあって学生プロフィールの入力は早く終わらせたい気持ちでした。僕は第一希望に落ちて横浜国大に来たので、箇条書きでもその時の気持ちを言語化したのはよかったと思っています。でも、箇条書きレベルでしか書いていなかったの、後で振り返って役立つかというあまり役立たない記述でした。

**市川**：あまり記憶にありません。「アカデミック・リテラシー編」も読んだはずですが、内容は覚えていません。でも1週間の生活時間の入力は、時間配分を分析するのに役立ちました。大学生活で挑戦したいことは自分で整理しているので、ポートフォリオに書き出す必要性を見出せず、ポートフォリオで振り返ることはしませんでした。

**中嶋**：入力はしたものの、どう活用すればいいかはわかっていませんでした。就活に使えると言われても、入学したばかりの時はまだ先と思って真剣には考えていませんでした。1年過ぎて、就業力のグラフが上がったり、下がっている項目があましたが、どんな要因でそうなったのかは自己分析できませんでした。そこがもったいないと感じました。

**市村**：活用が進まない原因は何だと思いますか。

**及川**：ログインが煩雑なことが、活用しない理由の1つです。特に、学外からアクセスする際はパスワードを二重に入れなければならないので。(全員、同意)

**里井**：(自己チェックシート類の)設問が多いのも要因です。周囲の学生の中には、設問を読まずに同じ数字を入れていた人もいます。

**市川**：入力する自分のメリットは何か、そのデータをどう大学が利用したいのかが読み取れないことも挙げられます。

**中嶋**：入学時は大学入学まで偏差値で測られてきました。就業力のグラフは、自分のスコアだけで、ただへーと思うだけ。何点取ると合格とか、学内の順位が出るとか、相対的な指標があるとわかりやすい気がします。よくしたいよね、という意識は皆あると思いますが、どこまで、がないとよくわからないので結局しくくなります。

## ■ そもそも、主体性とは何か

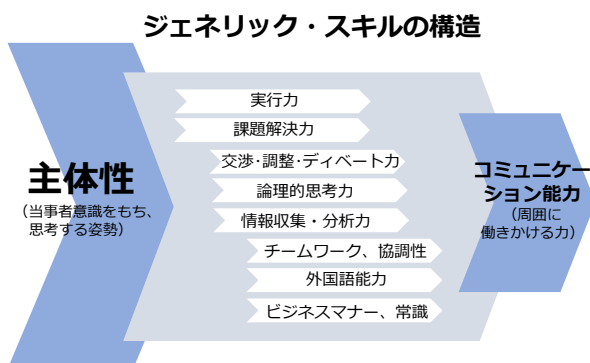
**市村**：2018年導入当初のポートフォリオは、改善すべき点が多々あったということですね。その議論を進める前提として、《主体性》について確認しておきましょう。

学生が自分に不足していると思う能力要素と、企業担当

者が考える学生に不足している能力要素を比較すると、学生は英語力や簿記、PCスキルなどが不足していると捉えるが、企業側はそれらをあまり問題にしておらず、むしろ主体性や粘り強さ、コミュニケーション力が足りないという回答し、スキル認識に相違があるとの調査結果があります。私も呪文を唱えるように「主体的な学び」と学生に訴えています。そもそも《主体性》とはどのようなことなのでしょう。辞書的な意味では「自分の意志・判断で行動しようとする態度」ということとなります。何となくわかりませんが、具体的に説明しろと言われると難しいですね。

私はキャリア教育の担当者として、産業界のニーズ調査を継続的に実施しているのですが、民間企業の人事担当者等へのインタビュー調査を通じて、就業力が発揮されるまでの大まかな構造を次のように捉えています。

- ① 仕事に臨む主体性が各スキルの原動力として作用する
- ② 主体性に基づき、各種スキルが発動する
- ③ それらはコミュニケーション能力により、周囲に働きかけられる



現実問題として、課題解決の手法を身につけたとしても、自分の職務に関する意義を理解し自ら課題を見つけ、解決のために周囲と協働しなければ、本当の意味での課題解決はできないでしょう。最近注目されているグローバル対応力についても、英語はツールに過ぎません。つまり、社会に出て活躍するためには、課題解決の方法論や英語などのスキルだけではなく、主体性がカギを握るのです。

では、主体性は社会に出てからのみ求められる能力なのでしょうか。私は、学業において主体性を発揮できた人こそ社会に出てからも主体性を発揮し活躍できると考えているのですが、パネラーの皆さんは主体性、または主体的な学びをどう捉えていますか。

## 学生にとって、主体的な学びとは

**竹内**：主体性は、子供でも、大学生でも、社会人でも必要ではないでしょうか。僕は子供のころから親や教師に逆らいながら生きてきたので、周囲が制限してくることをはねのけようとして主体的に動いていた気がします。

**及川**：大学生活において主体性は欠かせないと思います。授業に出るか、出ないか。出なくても単位がもらえるものもあるし、課題も1回くらい出さなくても大丈夫なものもあり、絶対的にしなければならないことが大学生活には少



ないです。そこで、自分で主体的に動くということをしていかないと、大学生活が成り立ちません。

**中嶋**：そもそも主体性がない状態で大学生活を過ごす、日々の満足度がすごく低くなると感じます。1年の夏、まだ学内の友人関係も少なく親元を離れていて、誰からも生活を制限されない状況で、ゲームしたりしてダラダラ3週間過ごしたことがあります。その際、とても空虚さを感じました。それも自由な大学生活の一面ではありますが、それに浸り続けるのはどうか、と思い、何かをしなればと意識して動くようになりました。

**中野**：本来なら大学は、高校までで学習、経験したことを踏まえて進学し、研究を進めるべきところですが、そこが不十分で、学習と成果の結びつけが難しくやる気を失い、主体性を失ってる人が多いのかなとも思います。

**市村**：では、学業や学生生活で発揮する主体性とは？

**中嶋**：僕が専攻している経済学は範囲が広く、マクロ、ミクロなどがあり、ケインズ、フリードマン、古典派など学派があり、それぞれに主張があり正解がない。自分のスタンスを明確にしないと深く学べないと感じます。そこを決定するには、さまざまな経済理論に触れて、自分が興味をもつものに絞らなないと、友人も行くからあのゼミにしよう、と流される面があります。

**竹内**：僕も経済学部ですが、英語と会計、統計学のゼミは社会に出て必要なもので主体的に学んでいます。すべての科目が自分の身になるとは思っていないので、それ以外は単位が取ればよいと考えていて、力を入れるものとそうでないものを区別して対応しています。

**中野**：経営学も広いですが、自分がしたいことだけを頑張って学ぶとかではなく、何か人類にとって役立つことを学ばなければならないと思います。社会全体に利益が行くかどうか、が主体的に動く要件になっています。

**里井**：教育学部は必修が多く、科目を選ぶ際の主体性は発揮できません。たとえば指導案を作る際に、自分の興味に合う材料を選ぶ部分で主体性が発揮できますが、全体的にルールが敷かれている観はあります。

**市川**：私は理工学部の物理工学 EP ですが、授業の選択肢が少ない上に単位取得も難しいため、みんな寸暇を惜しんで学業に取り組んでいます。そのため学業で主体性は発揮しにくい面があります。強いて言えば、授業で扱わないプログラミング言語や分野を自主的に勉強する学生もいるので、そこには主体性があるなと感じます。

**及川**：私は実家から通っているのでアルバイトはしなくても大丈夫なのですが、経験を積みたいと思ってしています。アルバイトでは、どうすることがお客様の満足に繋がるか、マニュアルにない行動を取れるか、それを自分のために行えるか。私はまだ明確な目標がなく、それを探す意味でも、自分にとってどんな経験を積むのがいいことを考えて動

くのが私の主体性だと考えています。

**竹内**：目的や目標をもってそれに向かって動くことが主体的な行動と捉えています。僕の場合はしたいことがいろいろありすぎて、どこに注力しようか、1年後に目標達成するためにどの順番でやろうかとか考えています。目標を定めるよりも、したいことを削り、プライオリティをつける部分で主体性を発揮しています。

**中嶋**：目標を定めた先にこそ主体性は大切ではないでしょうか。どのくらい真摯に実行するか。たとえば起業したい学生が、面白そうだと単に登記して会社を興せばゴールではなく、何か社会に価値を提供したいと行動することが大事で、それを達成できるか。つまり目標をプロセスに落とし込んで、実行する部分です。目標を実現する具体的な手段がいくつかあって、その中で何を選択し実行するか。そこを間違えると、登記はしたけど失敗だったね、になってしまいます。その成否を分けるのが主体性と考えます。



**市村**：目的や目標をもって行動することが主体性というご意見ですが、日常の授業においてはいかがですか？

**市川**：私の専攻は、座学や実験といった受け身で参加できる授業がほとんどです。定期試験も自分の考えを記述するような設問はなく正答がある設問が主なので、場合によっては解法を暗記してしまえばよい点が取れます。実験ではレポートに考察を書きますが、主体性が発揮されるような内容は求められていません。しかし卒業研究などでは、座学で得た知識はバックグラウンドとして活きます。座学を離れてから、その大事さに気付くこともあるはずですが。

**中野**：レクチャー中心の授業でも主体性を発揮することはできます。例えば、授業時間外、課題以外で授業内容を超えた内容を自ら学習し、それを継続的にすること。授業中でも、疑問を持ち、自分の答えを考えたいので調べたり、先生に質問をすることが考えられます。ただし、そうした主体性は自分の意志と力によって発揮しなければならないので、続けるのは簡単ではないと思います。

**竹内**：グループワーク中心の授業は、主体性を発揮した実感があります。一人一人に役割と責任があり、しなければならない強制はあるが、自分で目標を定めて動き、メンバーと議論し、自分にはない発想を吸収したりできました。学びが多く、意欲をもって主体的に参加できました。

**中嶋**：普段の生活に適用できるな、この理論はここに活か

せるなど思考できれば、講義中心でも主体的な学びになるのではないのでしょうか。ディスカッション中心の科目のように、自分で考えて発言せざるを得ない授業は主体性を発揮しやすいですが、講義中心のように主体性の発揮が強制されない授業のほうが一番主体的になれるように思います。

**竹内**：実際に活用できたり興味関心がある内容であれば、学びたい・知りたい感情から主体的に学べます。

**市川**：学生が各々の将来や興味に結びつけて、考えを巡らせながら授業に参加すれば、主体性を発揮できます。

**竹内**：授業は単位を取るためと割り切っています。ちょっと面白そうとなんとなく授業に出て、15回×90分の時間を費やして、何となくでは頭に入らないのに膨大な時間を無駄にしていることとなります。1年の頃、中途半端に出てあまり得るものがなく、結局この授業は単位を取るのみだったと思った反省もあり、そこは割り切って、他のことに時間を使うようにしたのも、主体性だと考えます。

**中野**：ゼミで研究する内容、卒業論文のテーマを自分で選び、先生の指導を受けながら研究を進める、という一連のプロセスで、主体性は発揮されるのではないのでしょうか。自分の意思を持って社会に有益で必要であると考えるものを選び、継続するには、まさに主体性が重要です。

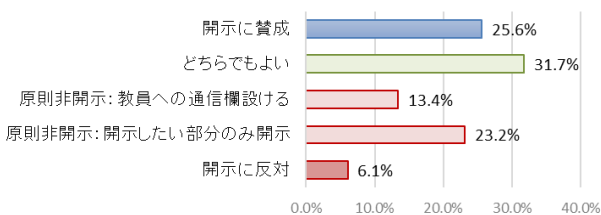
**市川**：(4年次に)研究室に配属されると、正解がないものに取り組むこととなります。授業や成績といった制限がなくなり、付け焼き刃では対応できなくなります。教員からの指示を待つのではなく、自分が納得できるように研究に取り組むことで主体性は発揮されるのではないのでしょうか。

**市村**：まとめると、いろいろな意味で大学生は自由な分、座学を含め主体的な思考と行動がもとめられる、その主体性の源泉は自分自身の目的意識、ということですね。では、ポートフォリオに話を戻しましょう。

## ■ 教員のポートフォリオ閲覧機能の是非

**市村**：本学のポートフォリオは、学生の主体的な学びを促すツールです。その点で、導入担当者として、教員への開示機能の扱いが気になっていました。2018年度の末に実施した学生への調査でも意見が割れました。

ポートフォリオの教員への開示に賛成か



指導教員からフィードバックがあるほうが入力の励みになったり、アドバイスを受けられてよいという学生の意見があります。一方、教員が閲覧すると学生は当たり障りのないことしか書かなくなり、学業や学生生活を内省するツ

ールではなくなるのでは、と危惧する声もあります。これまでポートフォリオを使ってきた経験を踏まえて、パネラーの皆さんはどのように考えますか。

## ポートフォリオは教員に開示すべきか

**及川**：反応がないのは読まれていないのと同じですので、教員からのフィードバックがあることが前提で、開示に賛成です。それが主体性か、といわれると微妙ですが、見てもらうほうがモチベーションは上がります。高校のとき、毎週勉強の予定を立て、実績を担当に報告し、フィードバックをもらっていました。勉強時間がクラスで2番ですよ、などコメントをもらうことで、見てもらっている実感があり、やる気に繋がりました。でも、大学はそうした教員とのやりとりがありません。

**中嶋**：他者に見せるならしっかり書かねば、という強制力が働きますので、教員に読んでもらうほうがよいです。一方で、学生を把握するために読まれるのは抵抗があります。

**里井**：振り返りシートで前学期の内省をして次に繋げられている実感があり、教員に読まれる必要はないです。学業以外のことも振り返りシートには書きます。それらを読まれたり、評価されるのは歓迎できません。開示しないほうが自由に書けます。教員への開示は、自主性を強制されている感じもします。大学での学びはある程度自己責任なので、それぞれの判断に任せてよいのではないのでしょうか。

**市川**：私も開示に抵抗があり、教員に読まれるなら具体的に書きたくないです。学生が希望した教員に読んでもらえるなら良いですが、各専攻で多くの学生を抱える中、作業的に読まれるなら開示する意味はないでしょう。ポートフォリオを介さなくても、教員へ相談に出向けば事足ります。

**竹内**：教員に見られても自分は気にならないので、どちらでもよいと思います。人に見られる意識で書くのは、それはそれで勉強になるし、逆に見られない前提なら自由に書けるのでよいです。その人の考え次第でどちらでもよいのではないのでしょうか。

**中野**：僕もどちらでもよいです。学習態度や主体性醸成は自己責任に近く、教員が発破をかけるものではないはずで。一方、見られる意識で書くことで、きちんと書こうとするかもしれません。学生が開示するかどうかを選択できるようにしてもよいかもしれませんね。

**市川**：ポートフォリオを使わなくても、学業以外を含め主体的に行動している学生が私の周りにはたくさんいます。それに、教員に開示してもフィードバックがそっけなかったりすると、期待外れでがっかりすると思います。

**中野**：大学が学生を管理するためでなく、学生の主体的な学びのためにポートフォリオがあるのであれば、内容に関してフィードバックというか、口出しするのは主旨とずれると思います。

**竹内**：そもそも教員は時間がなく、じっくり読めないのではないのでしょうか。教員側も、閲覧せよと指示されて読む方が多くて、学生の意欲を促進したいと思って閲覧する方は少なく、効果がないのでは、とも思います。

**市村**：やはり皆さんの受け止め方はさまざまですね。教員が一人ひとりの学生を十分に理解していない場合、適切なフィードバックをできるかも、確かに懸念があります。2019年度は、学生調査の結果を踏まえ、各学部から意見聴取しつつ検討を重ねました。教員側も皆さんと同様、賛否両論ありました。最終的に、ポートフォリオは学生の自発的な内省を促すツールであり、学生の自己発見的な気づきや振り返りを妨げない運用が妥当という結論に至り、2020年度より振り返りシートの閲覧は廃止することにしました。ただし、アドバイスを求める学生もいて、特にゼミや研究室に所属する前の低学年でその傾向にありますので、教員とコンタクトするチャンネルは確保するよう配慮します。

### ■ ポートフォリオ活用促進・入力精度向上の取り組み

**市村**：2018年度の末に実施した学生調査で、ポートフォリオは役立つかという設問の平均スコアは2.06（4件法）と低く、誠実に入力したかという設問でも2/3はいはい/加減に入力したとの回答でした。主な理由は先ほどの皆さんの意見と同じで、履修登録を早く済ませたかったことと、入力の意義がわからなかったことです。加えて、ポートフォリオの活用法を説明した「アカデミック・リテラシー編」を読むと役立つツールであることがわかる、周知が足りないのでは、との意見もありました。これらの結果を受け、2019年度はポートフォリオの活用促進・入力精度向上のための施策に取り組んできました。



(アカデミック・リテラシー編)

初の試みとして学生向けに「学生 IR ニュースレター」を発行して、本学学生の学修・生活時間の特徴や就業力の課題について解説し、啓蒙活動を強化しました。学修・生活行動チェックシートの設問も精査して、70問から37問に半減して入力負担を軽減しました。

そうした施策の結果、ポートフォリオの役立ち度は2019年度秋には2.36と少し向上しています。学生 IR ニュースレターを読んだ人と読まない人でスコアを比較すると、1年生の場合、読まない人が2.44に対し読んだ人は2.70で、入力の意義がわかれば役立ち度も上がることも確認できまし

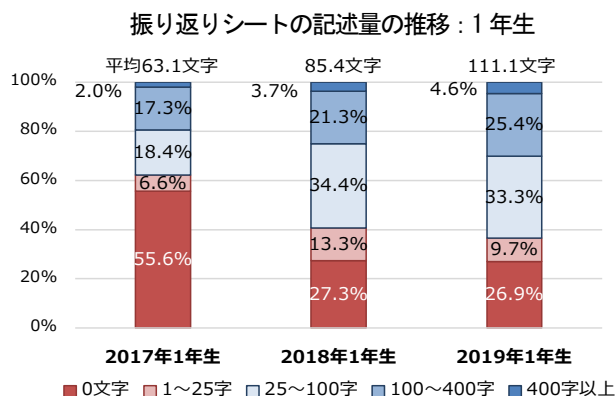
た。入力精度も、2018年春の有効回答率は51.9%でしたが、2019年秋には88.0%まで改善しています。



(学生 IR ニュースレター)

本学のポートフォリオの目的は学修成果の測定や評価ではなく、学生の皆さんの主体的な学びを促進するきっかけ作りです。学修成果として可視化した学士力や就業力のグラフを見ながら、「振り返りシート」でいかに自分自身の特徴や成果、課題を言語化し、新学期を構想できるか。試みに、振り返りシートの記述文字量を集計すると、1年生の文字量は、本格導入前の2017年は平均63.1文字、導入後の2018年は85.4文字、2019年は111.1文字と着実に増加しています。もちろん単純に文字量で判断できるものではありませんが、これらは周知策の効果も含め、学生の皆さんが入力の意義を見出し始めた結果と推測しています。

では、ポートフォリオの活用を促進するために、求められることは何でしょうか。



## ポートフォリオを《主体的な学び》につなげるために

**及川**：振り返りシートの設問は漠然としていて、どう書けばよいかわかりませんでした。より具体的にかけるように、何をしましたか、どのようにしましたか、など段階的に掘り下げられる質問をしてくれるほうが書きやすいです。

**竹内**：ポートフォリオのメリットは、現在と過去の自分を比較できることだと理解しています。先日、初めて履歴書を書いて、今の自分は活動は多いが成果は少ない、と実感



できました。そうした気づきからどんどん成長していこうという意識になれば、ポートフォリオの目的は達成できるので、何年何月にこの資格を取った、というようなことも含め履歴書形式で書くのも手かなと思いました。

**中嶋:**自分がどれだけ変化したか、絶対的な指標も必要で、自分が過去とどれだけ進歩したか、またはズレたかを認識することも大事だと最近思います。すごい人ばかり目指して頑張っただけで心が折れてしまって自分にはできない、となったときに大切なのは自分自身の成長実感で、それを自覚するツールになります。

**中野:**学生プロフィールの入力は履修登録のときで、半年に1回ですが、もっと頻繁に入力を促すようにするほうがよいです。3か月ごととかに、見直しを促す働きかけがあれば、学生も改善につなげやすいのではないのでしょうか。

**市川:**慌ただしい履修登録時に入力するのが相応しくありません。長期休業中の課題にするとか、思い立ったときに随時入力できるようにするとか。締切直前まで入力しない人もいると思いますが、それは仕方ないことです。

**中嶋:**現状は、ポートフォリオの真意を理解していない学生がほとんどだと思います。入学時に1時間くらい強制的に書かせて、その場で教員がポートフォリオの意義を説明して定着させるなど、最初の段階でしっかり広報するのが大事ではないのでしょうか。

**市川:**理工学部生は、学業以外に十分な時間を割けないのが現状だと思います。それなのに、ポートフォリオで自分を振り返りましようと言われても、正直言って響かないでしょう。大学院に進学する学生も多いですし。授業として振り返りの機会を設けるなど、学生に振り返りできる時間や気持ちの余裕を与えてもらうのが理想です。

**中野:**現状は、履修登録の前にある障壁がポートフォリオ、と思っている学生がほとんどでしょう。面倒くさい、やらされ感があります。学生が自ら取り組みたいと思えるようになることが必要ではないのでしょうか。

**中嶋:**社会に出るときに役立つ、とかメリットがわからないと使わないよね。

**里井:**半期ごとに自分が何を考えて授業を受けてきたか、何を大切に何に頑張ってきたかなど、学生生活の実感を持つのがポートフォリオです。つまり、自分について考える機会になるツールだと自覚することが大切です。

**市川:**学生プロフィールから集計分析した学生の傾向などを、より見やすく提示していただきたいです。「学生 IR ニュースレター」もメールでお知らせが送られてきますが、数多くのメールに紛れて目に留まりません。

**市村:**最後に、本パネル・ディスカッションの核心の質問です。皆さんにとって、ポートフォリオは必要ですか？

**及川:**強制的にでも振り返りをしないと残らないので、ポ

ートフォリオは存在してほしいです。

**中野:**ポートフォリオは必要です。(主体性を自発的に持続させるのは難しいので) 強制的に入力する機会を作らないと、入力する人は少ないでしょう。

**里井:**日常的に自分のことを考えるためにポートフォリオは使えます。でも、なければならないにできると思います。

**市川:**私はポートフォリオが主体性を醸成するきっかけになるのか、疑問があります。主体的に考える人だからポートフォリオを活用する、という方向性な気がします。

**中嶋:**ポートフォリオは自分の行動をよりよくまとめるためにどんなツールがあるとよいか、という発想で生まれたツールではないのでしょうか。つまり、まとめたいという人が使うから活きるツールです。フレームを作れば誰もが主体的に考えられる、という短絡的なものではありません。

**竹内:**正直言うと、必要性は感じません。しかし、ポートフォリオの価値がわかるのは就活中だったり、卒業前なのではないのでしょうか。今は価値がわかりませんが、今後書いていてよかったと思える時がくるかもしれません。



**市村:**長時間にわたりご意見をいただき、ありがとうございました。学生の皆さんに、より有効にポートフォリオを活用していただくためには、運用の仕組みや活用法の周知など、まだまだ改善の余地があることがわかりました。

ポートフォリオは、使いかた次第で主体的な学びを持続するための気づきを得られる、ただしそれは本人にその意識があるかどうかによる、そして使わなくてもできる人はできる、ということですね。もちろん、ポートフォリオはツールにすぎず、入力すれば自動的に何かがわかるわけではありません。就活に臨む際に、自分の強みは？と切実に考えるように、学生本人に学業や学生生活、将来に関して問題意識が芽生えて、自分と対峙する姿勢になったとき、初めてツールとしての効力を発揮するものなのでしょう。

そしてそれらは、本来なら大学生たるもの、ポートフォリオというツールがなくても、自発的に自分の頭の中で思考し、書物を漁ったり、教員や友人と対話するという行為を通じてするものなのでしょう。その意味で、ポートフォリオ運用推進者としての私の究極のゴールは、ポートフォリオがなくても学生の皆さんが主体的に学ぶ状況を実現することになります。今後も学生の皆さんの意見を反映しつつ、ポートフォリオ廃止を目指して(苦笑)、教育改善に取り組むことをお約束します。

(市村光之)